

海事産業の取組 ～コロナに立

海事産業が直面する深刻なコロナの影響

2020年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行による、旅客輸送や物流の需要減退、経済活動の停滞などの影響を受け、海事産業は今、大変な苦境に立たされています。

海運業では、特に旅客船事業で深刻な収入減や輸送事業の長期休止など、極めて厳しい状況が長らく続いており、世界的な景気の悪化等により、造船業にも大きな影響が出ています。

特集

外航旅客船（国際定期航路、国際クルーズ）

（定期航路、外航クルーズ）



国際的な人の往来が制限される中、海運業でも特に外航旅客船事業は極めて厳しい状況が、1年以上も続いている。

外航旅客船の定期航路事業は、日韓航路（3者）は2020年3月9日以降、1年以上経過する現在も**旅客輸送を休止中**。

クルーズ船事業（邦船社）は、2020年10月下旬より、国内クルーズが順次再開しているものの、緊急事態宣言発出時等は運航を中止。国際クルーズは依然として**全事業者が運休中**。

内航旅客

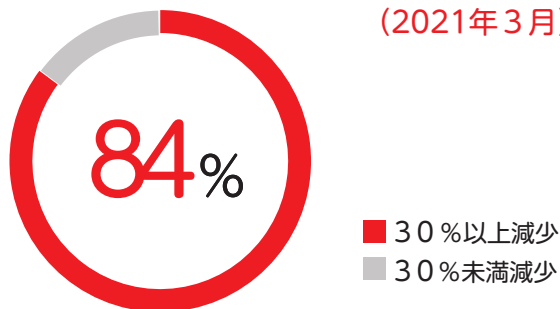
内航旅客船事業者への調査※の結果、1度目の緊急事態宣言が発出された**2020年4月・5月**は、**観光船を運航する事業者の100%**が、**運送収入が3割以上減少**したと回答。宣言解除後も同割合が**90%を超える極めて厳しい状況が8月まで続いた**。

その後、回復傾向が見られたが、2度目の緊急事態宣言発出に伴い、2021年1月には状況が再度大幅に悪化。

3月でも、**同割合は84%**に及んでおり、内航旅客船事業も依然として厳しい状況が続いている。

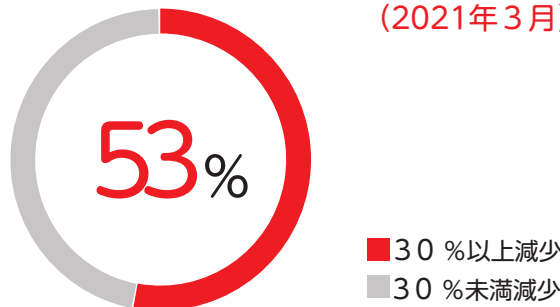
※調査方法：内航海運（旅客）事業者99者（総事業者964者）に対して業界団体・各地方運輸局等より影響をヒアリング

内航旅客船（観光船）の売上減少の割合
(2021年3月)



※新型コロナウイルス感染拡大前の2019年3月と比較を行ったもの
※主に観光地に就航する船舶を「観光船」として海事局で分類

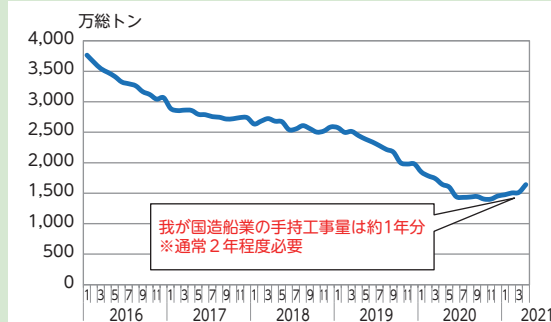
内航旅客船（観光船以外）の売上減少の割合
(2021年3月)



※新型コロナウイルス感染拡大前の2019年3月と比較を行ったもの

造船業

手持工事量の推移



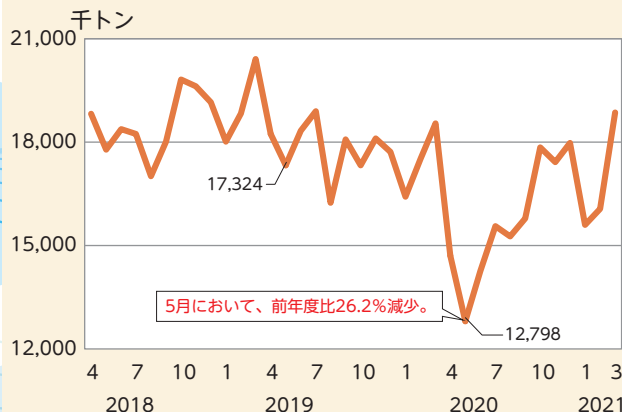
通常2年程度必要な手持工事量が1年程度と、危機的な水準まで低下。操業確保のため、**赤字案件でも受注に踏み切らざるを得ない状況**。

また、海外展示会の中止により新規商談等も停滞しており、**受注環境は依然として厳しい状況**。

事業者においては、雇用調整助成金や産業雇用安定助成金なども活用しながら、雇用の維持・確保に努めている。

内航貨物船

内航貨物船は、2020年5月に取扱貨物量が12,798千トンまで落ち込んだものの、その後は回復傾向が見られる。



特集1 海事産業の取組～コロナに立ち向かう海事産業

ち向かう海事産業～

さらなる安心・安全を目指して

このような状況だからこそ、これからも国民の皆様安心して船に乗って頂くため、そして、海運業の持続的な発展のため、政府、事業者、教育機関、関係団体は丸となって、**さらなる安心・安全の確保に向けた取り組み**を進めています。

ここでは、様々な工夫を取り入れている事業者や学校、政府の取組の一例をご紹介します。



特集

特集1 海事産業の取組～コロナに立ち向かう海事産業～

離島航路事業者のコロナ対策 ～九州郵船(株)の取組み～

当社は、博多～壱岐・対馬、唐津（佐賀）～壱岐の計3航路をフェリー5隻、ジェットフォイル2隻にて運航している旅客船事業者です。

新型コロナウイルスの感染防止対策として、乗組員等の始業前における検温の実施・記録及びマスクの着用は勿論のこと、毎便入出港時の扉開放や空調機・換気扇の常時運転により十分な換気対策を行っています。

また、船内は案内所、売店などに飛沫感染防止シートを設置し、客室内は抗菌・抗ウイルスコーティングを施工しており、抗菌効果のある空気清浄機も増設しました。ターミナルにおいても、検温を実施し、待合所等も様々なソーシャルディスタンスを確保する工夫も凝らしており、万全を期しています。



▲フェリーちくし案内所 飛沫感染防止シート



▲ジェットフォイル抗菌抗ウイルス加工

さらに、昨年は、対馬（比田勝港）で海上保安部や保健所などの関係機関も参加し、船内にてお客様にコロナ罹患の疑いが発生したケースを想定し、船内訓練も行いました。

これらの取組を通じてお客様に安心して乗船いただけるよう今後も努めて参ります。

海事産業の取組 ～コロナに立

内航海運の持続的な発展に向けて
日鉄物流株式会社 ～実務型練習船「れいめい」～

令和2年3月末、内航船員の育成を目的とした実務型練習船「れいめい」が竣工しました。船員育成に向けた事業者の取組や居住性に優れた快適な船内をご紹介します！



実務型練習船「れいめい」

特集

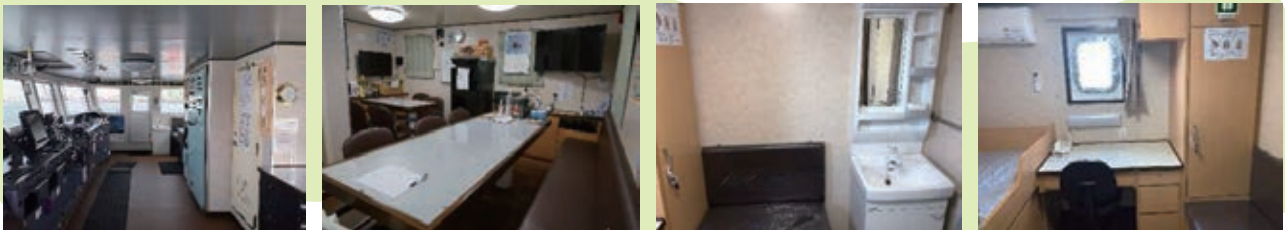
背景

少子・高齢化が進む中、内航海運においても、将来の担い手不足が懸念されています。

船員教育の経験・ノウハウや負担の観点から、船主に意欲があっても新たな船員の採用や育成が難しい状況下、日鉄物流株式会社では、実務型練習船「れいめい」を建造し、傘下の船主が雇用する船員を乗船実習教育の対象とすることで、グループ全体の船員の確保・育成に努めています。

この練習船の運航により内航海運業界の持続的な発展に寄与するとともに、内航海運業界の将来を担う航海士や機関士の候補者が、船員という職業に魅力を感じてもらうこと、また教わる側・教える側が業務にやりがいを感じ、成長を共感できる場とすることを目指しています。

point 快適な実習スペース&居住スペース！



- ・ブリッジ（操船に関する指揮所）は、教育のため標準的な船より1.5倍ほどの広さがあり、疲労軽減用のマットが敷かれています。
- ・座学用の教室やミーティングルームとしても使用できる広めの食堂など、船員養成のための実務環境も充実！
- ・各部屋にエアコン・TV・ブルーレイレコーダーなどが設置され、Wi-Fiも通っているので、プライベートの時間も快適に過ごすことができます。

実習生の声



「れいめい」で実習を受けていかがでしたか？

海技学院を卒業後、海上実習のため本船で実習を受けました。初めて約3ヶ月通して乗船しましたが、広いスペースで教えてもらいながら日誌を書いたり、最新の設備で色々と丁寧に教えていただいたりと、**充実した環境で学べたので、とても快適でした。**



実習生（株）新光海運
濱岡 恭平さん

実習生を送り出した船主さんの声

（株）新光海運 佐藤社長

何より船員としての心構えの成長が大きい事、そして実務面でも基礎が身に付いたお陰で指示、応答がスムーズに行なわれています。自社船で我流・フィーリングで知識技術を身に付けるのも悪くありませんが、**きちんと基礎から指導いただける実務型練習船の環境は貴重と再認識しました。**

ち向かう海事産業～

クルーズの安全・安心の確保に向けた取り組み



オンラインシンポジウム「New Style Cruise～withコロナ時代のクルーズスタイル～」

2020年12月8日、「New Style Cruise」と題する政府広報を実施しました。withコロナ時代のクルーズスタイルをテーマとしたところ、政府広報史上最高の視聴回数となり、クルーズへの関心の高さが明らかになりました。

2019年はおよそ36万人の日本人にクルーズを楽しんでいただきましたが、新型コロナウイルスの影響で、本邦クルーズ船も2020年3月から半年余り、運航が中止されました。これを受け、関係業界団体によるクルーズ船及び受入港のガイドラインの公表、衛生管理規程（感染症対策マニュアル）の策定及び届出の義務づけ等、様々な取り組みを進めた結果、2020年10月から本邦クルーズ船の国内運航が再開されました。

2021年5月現在、国内での感染拡大、緊急事態宣言発令等を受け、国内クルーズの運航は当面中止となっていますが、今後も、皆様が安心してクルーズを楽しめる環境の整備に向けて、関係者と連携して取り組んで参ります。



政府広報オンライン「New Style Cruise」 詳しい情報はこちらから！
<https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/COVID-19/policy/new-style-cruise.html>



▲各有意識者の皆様によるパネルディスカッション



▲海事局長基調講演

特集

特集1 海事産業の取組～コロナに立ち向かう海事産業～

クルーズ界に明るいニュース 新造船2025年デビュー！



郵船クルーズ（株）が新客船建造を決定！
 最新・万全の感染症対策&エコ技術で世界に誇れるクルーズを提供



▲新造客船（イメージ）（郵船クルーズ（株））

郵船クルーズ（株）が、新たな客船（51,950トン）の造船契約を締結しました。

この新造船は、2025年中に完成予定！100%外気取込方式の換気システムの導入、感染症に対応した検査室や隔離病室、ICU（集中治療室）等、最新の感染症対策設備を設置する他、乗客定員も「飛鳥Ⅱ」の85%程度に絞ることで、安全・安心で快適な船内空間を実現します。

また、環境負担軽減のため、3種類の燃料に対応するエンジンを中型客船で初めて搭載します。環境負担軽減の要請が世界的に高まる中で、コロナ対策や環境負担軽減に配慮した新造船の建造は、国内外の観光産業を元気づけるとともに、将来のクルーズ船への需要喚起につながる事が期待されます。

主要目比較	新造客船 (船名未定)	飛鳥Ⅱ
全長	228.9m	240.9m
全幅	29.8m	29.6m
喫水	6.70m	7.80m
総トン数	51,950GT	50,444GT
乗客定員	約740名	872名
乗組員数	約470名	約490名
航海速度	最高20ノット	最高21ノット

▲新造船概要

※上記は、2021年3月時点のもので、内容及びイメージは変更・中止となることがございます。



海上コンテナ貨物輸送の受給ひっ迫に関する取り組み



国土交通省の取り組み

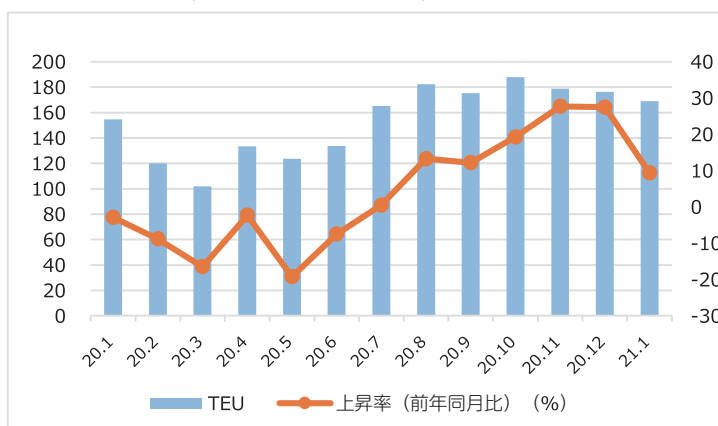
コンテナ船では、衣類や電化製品などの生活雑貨から機械部品等まで多種多様な貨物を国際規格のコンテナに収納して運んでおり、2020年の我が国の海上貿易額のうち約6割超がコンテナ積み貨物です。

昨年前半は、コロナ禍の影響等により、国際貿易が一時的に縮小しましたが、その後、いわゆる「巣ごもり需要」等により急速に輸送需要が回復したことや、北米西岸など海外主要港における滞船などから、世界的に海上コンテナ輸送の需給が逼迫し、**輸送の遅延と輸送スペース不足等**が生じています。

このような中、国土交通省は、2月5日付で荷主・物流事業者・コンテナ船社に対し、状況改善のための協力を要請しました。また、4月23日には、経済産業省や農林水産省と共同で、荷主・コンテナ船社といった関係者による情報共有会合を開催しました。

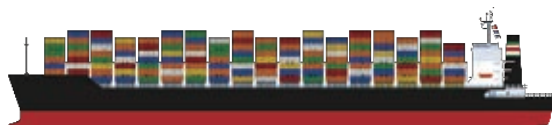
国土交通省としては、引き続き、コンテナ不足の状況や影響を分析しつつ、関係者と連携し、円滑で安定的な海上物流の構築に向け、しっかり対応して参ります。

米国航路（アジア18か国⇒米国）月別荷動き量の推移



特集

特集1 海事産業の取組〜コロナに立ち向かう海事産業〜



オーシャン ネットワーク エクスプレス (ONE) ジャパンによる 2020年度の取り組みと今後の展望

※ 日本の大手海運会社3社のコンテナ船事業部門を統合して、2017年に成立

2020年度はコロナ禍を受け、陸上社員の完全テレワークの実施、困難な船員交代の手配と変化する荷量への対応に追われた一年でした。

貨物需要の急激な回復に対し、ONEは迅速に輸送力を回復させ、臨時船や新造コンテナの確保を進めました。しかし、高止まりする貨物量により港や鉄道・トラックなどの陸側のオペレーションがひっ迫した結果、船の入出港に時間がかかり、スケジュールの維持が難しい状況が続いています。

このように大変な一年でしたが、海上コンテナ輸送が世界を支える重要な物流インフラであることを改めて認識いたしました。

ONEは将来にわたり安定した輸送を提供するため、新造コンテナ船に投資し、日本を含めたグローバルネットワークを拡充いたします。そしてデジタル化を進め、お客様が弊社のサービスをより速く、いつでも手軽にご利用いただけるよう努めます。また、より積極的に環境問題に取り組みます。

引き続きONEをご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。



ONE MINATO2



独立行政法人海技教育機構（JMETS）とは

海上技術学校、海上技術短期大学校及び海技大学校における学科教育と練習船による航海訓練を通じた一貫教育、商船系大学や高等専門学校の船員養成機関の学生に対する航海訓練を通じ、海技者として要求される資質を兼ね備えた優秀な船員を養成しています。

感染予防措置を講じた実習訓練

新型コロナウイルス感染症予防のため、**整列時は間隔を空ける、少人数のグループ単位で実習を行う、複数の場所に分散して同時に講義を聴講する船内遠隔教育を行う**など、密を避けて実習訓練に取り組んでいます。

その結果、練習船においては**一人の感染者も出ておりません**。（R3.6.21現在）

Web会社説明会（練習船・学校⇄船社）

生徒・学生に対し就職支援の一環として行われてきた会社説明会は、コロナ禍の状況を考慮し、**練習船等と船社をWeb会議システムでつないだWeb会社説明会を開催**しました。

「VR学校見学サイト」開設

国立清水海上短期大学校では、**仮想現実技術を利用した「VR学校見学サイト」を開設**し、コロナ禍においても、全国の中学生・高校生に船員を目指す学校の魅力をアピールしています。



VR学校見学はこちら!!



外国人船員の承認審査をオンラインで実施しました！

承認制度とは？

日本と船員の資格に関する二国間の約束をした相手国の資格証明書を有する外国人船員が、日本船舶に乗り組む場合、日本の海事知識の確認や身体検査を受ける必要があります。

Web会議システムを利用した審査の実施

承認審査は毎年、フィリピン等の海外において実施していましたが、コロナ禍の影響により、審査員が渡航できず実施できない状況が続いていたので、令和3年2月、日本とフィリピンの試験会場をオンラインでつなぎ、カメラによる監視や現地監督者を配置して**Web会議システムを利用した承認審査を実施**しました。



特集

特集1

海事産業の取組〜コロナに立ち向かう海事産業〜

課業整列



実習中も三密対策を徹底しています！

WEB説明会の様子



コロナ禍でも頑張る就活生を応援！



校内練習船



▲身体確認のため手指の屈伸を行う受験者